

H28.11.17 下田東中学校学区説明会 概要

日 時 平成 28 年 11 月 17 日（木）午後 7 時から午後 8 時 30 分

場 所 下田市立下田東中学校体育館

出席者 保護者及び教職員：49 人

市教委：佐々木教育長、峯岸課長、山梨参事、吉田係長、土屋指導主事、土屋技師、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんばんは。ただ今から下田市総合教育会議報告書下田東中学校学区説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしく願いいたします。初めに教育委員会側出席者の紹介をさせていただきます。

— 市教委側 自己紹介 —

それでは、続きまして佐々木教育長より挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

<教育長>

皆様、こんばんは。大変お忙しい中、中学校再編に係る説明会にご出席いただきましてありがとうございます。

この説明会の趣旨でございますが、下田市総合教育会議で検討・協議した内容について説明させていただきます。保護者の皆様からのご意見をお伺いしたく、中学校学区単位に開催させていただいております。10月24日には稲梓中学校学区、11月11日に稲生沢中学校学区、11月15日に下田中学校学区で説明会を実施し、また未就学児の保護者の方を対象としまして、民間保育園、認定こども園、幼稚園及び保育所での説明会も実施させていただきました。

また、市長と語る会についても10月17日から11月10日までの期間、市内6地区で開催しました。市長より、学校再編をトップに庁舎や地域の課題について、話し合いを持ちました。

それぞれの会での、ご意見としましては、通学費や通学方法、そして、1校化になった場合のメリット・デメリット等のご意見を頂きました。

この後、事務局より今日に至った経緯と今後に向けてのスケジュール等の説明をさせていただきます。最後になりますが、教育委員会としまして、下田市の子ども達の未来に向けて「子どもにとって、より良い学習環境創り」をしていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

3 報告書概要説明

<係 長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質 疑

<係 長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いいたします。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

<課 長>

いきなりご意見をというのは難しい部分があると思いますので、私からこれまでの説明会の中で、主な質問について、少し話をさせていただきます。これまで、稲梓中学校区、稲生沢中学校区、下田中学校区、民間保育園、幼保こども園にて説明会を開催させていただきました。その中でのご意見としましては、まず具体的にいつ再編を行うのかというご意見がありましたが、今現在、早くても平成 33 年度以降に再編をさせていただくということで進ませていただいております。具体的には、現在の小学校 2 年生から 4 年生の子どもたちが、中学校 1 年生から 3 年生になるときになります。2 目としましては、この 1 校化はもう決まったことなのかというご意見ですが、先ほど説明をさせていただきましたが、総合教育会議での方向性を示したということであり、今回のような説明会を開催させていただく中でご意見を伺い、再度、再編整備審議会へ諮問、答申を経た上で、今後進めさせていただきたいと考えております。最終的な行政的な手続きといたしましては、学校設置条例というものがございまして、これを改正し、市議会でこれを認めていただいた後、正式な決定ということになります。3 目としまして、やはり通学補助に関する問題につきましてもご意見をいただきました。概算的なことで説明をさせていただきますが、資料の 51 ページをお願いします。現在、下田東中学校に対しましては通学補助を交付しております。具体的には、50 人の方に補助支給額として 209 万円交付しておりますが、逆を言いますと中学生は半額補助ですので、同じ金額を保護者の方がご負担していただいております。単純に 1 人当たりを算出しますと年間 4 万円くらいになります。一方、再編後の想定ですが、資料 56 ページに白浜、57 ページに浜崎地区が掲載されておりますが、今の補助制度のまま、下田中学校あるいは稲生沢中学校に通学するとなった場合、1 人当たりのご負担は倍の 8 万円から 9 万円程度に上がってしまいます。具体的な通学の補助内容については、今後決定されますが、教育委員会としまして、保護者の方に今以上の負担を増やさない形で取り組んで参りたいと考えております。

<係 長>

先ほど担当から説明をさせていただきましたが、12 月に第 2 回の中学校再編検討会議という市内全小中学校の校長先生、PTA 会長、市内 6 地区の区長会長さんを集めた会議を開催させていただきます。その中で、今回説明会を各地区で開催させていただいておりますが、そこで頂いたご意見などを反映させていただき、色々な課題などを集約させていただきたいと考えておりますので、ぜひともご意見をいただければと思います。

<保護者(女性)>

通学について、一番不安があります。今は 4 万円くらい負担ということでしたが、市内全域からの通学となると地域によっても不公平が出てくると思われまます。通学のためのバスというものを検討されているのかお伺いしたいです。

<課 長>

スクールバスの運行についてですが、現在のところ未定です。先ほど通学補助の説明をさせていただきましたが、既存補助制度のままだと負担が増えるというお話をさせていただきましたが、この想定は

バス路線を活用したものになります。スクールバスの運行につきましても、ご意見を頂いておりますので、今後の検討課題として貴重なご意見として伺わせていただきたいと思います。

<係 長>

補足させていただきますが、先ほど負担という部分につきましては、既存制度の1/2という形で説明をさせていただきましたが、できる限りこれ以上保護者負担が増えない形で検討を進めさせていただいております。今回、説明資料でなぜ公共交通機関、バス利用を想定させていただいたのかと言いますと、例えば生徒の安全確保という面におきましては、スクールバスというものは非常に有効であると理解させていただいております。しかしながら、市全体のことを考慮させていただきますと公共交通機関、特にバス路線は高齢者の足となっておりますが、近年バス利用者が減少してきており、減便あるいは廃止という形になっておりまして、そういったものを維持させていきたいという意図もありまして、今回の想定をさせていただきました。この通学部分の検討につきましても、そういった市全体の視点も踏まえた形で、当然、皆様方からのご意見につきましてもしっかりと整理させていただき、課題解決をさせていただきたいと考えております。

<教育長>

不公平感というお話をいただきましたが、これは当然、地域によって違ってくるということで、なるべくそういったものがないように教育委員会としては、配慮させていただき、進めさせていただきたいと考えております。

<保護者(男性)>

通学補助について、仮に実施した場合、何年度まで続くのですか。

<課 長>

今の制度は、いつまでといった期限を設けておりません。新たに補助制度を創設などした場合につきましても、現在のところ、期限を設けるという考えは持っておりません。

<保護者(男性)>

下田市の人口は減少しておりますが、この地域に住んでいる人、新たにこの地域に住もうとする人もそうですが、中学校がこの地域になくなるということを考えますと、やはり中学校の近くに住みたいと考えるだろうと思います。今後、小学校についても人数が減少し、いずれは小中ともなくなるという想定も十分に考えられると思います。小中学校は地域の文化の拠り所という側面もあり、そうしますと地域によって、子どもの偏りや格差というものが発生するのでないだろうかという危惧しています。そういった部分について、教育委員会としてどう考えているのかという部分をお伺いしたいです。また、中学校がなくなることにより、周辺土地の価値が下がるとは思われますが、そういったことについて、市政全般のことですので教育委員会には関係ないことだとは思いますがお伺いします。

<教育長>

まず、文化の拠り所ということで、ご意見の中で小学校のことも含まれていたと思われれます。先ほど再編整備審議会の答申の説明をさせていただきました。今回は中学校部分のみの説明だけでしたが、小学校部分の答申もありまして、それがどういったものかと言いますと、複式学級が発生した時に再編を考えていくという内容になります。今の数字的なところからいきますとあと10年は複式学級は発生しないという想定をしております。ただ、急激な人口減少により複式学級が発生する場合がありますが、文化という側面を踏まえると小学校と地域は非常に繋がりが強いものだと思います。一方、中学校を考えてみますと、中学校のお子さんをお持ちの方はある程度お分か

りになると思われませんが、部活動等も行っている関係もあり、ウィークデイでの地域との繋がりというものはあまりないのではないかと考えております。ただ、祝祭日の例えばお祭り、お祭りについては地域によって土日関係なく平日に実施するところもございますが、あとは防災訓練など、限られた部分での繋がりだと考えております。そういった点を踏まえると仮に1校化になったとしても、当然今現在続いている繋がりを持続していく必要はありますが、十分対応することは可能だと思います。教育委員会としましては、確かに地域性というものはありますが、先ほど通学時間の説明しましたが、時間等を考慮しても全く無理だという通学時間でもないという中で、下田は1つという視点や子どもたちのことを一番に考え、より良い教育環境を整えたいというところから今、学校再編を進めさせていただいております。人口減少のお話もありましたが、教育委員会としましては、今の子どもたちにどうしたらより良い教育環境が整えられるかという部分に重きを置いて検討をさせていただいており、多くの人を地域に住んでもらうことなどといった視点で考えますとどちらかと言えば、ある意味、そうではないということを進めさせていただいていることをご理解していただきたいと思っております。

<課 長>

具体的に4校を1校にすると3つの中学校はなくなってしまいます。当然、その後の跡地利用については、今後どうしていくかという部分は、今申し上げられないのですが、その跡地利用を有効に検討していかなければならないと理解しております。また、そういったご意見もこれまでの説明会などでも多くいただいているところでございます。

<係 長>

補足をさせていただきますが、跡地利用のことですがまだ検討の段階にも入っておりませんが、地域の核となる中学校がなくなるという形になりますので、当然、地域の要望を踏まえながらどういったものを設置したら良いのかということ市として考えていかなければならないと思っております。今後、そういった跡地利用の検討に入ったときでもそうなのですが、こういったものが必要であるなどといったご意見につきましても、ぜひ要望をしていただきますようよろしくお願いいたします。また、今回説明会を開催させていただいておりますが、この資料をもとに保護者の方全てを対象にアンケートを実施させていただきます。その内容につきましては、2校のうちどちらが良いかという設問などありますが、皆さんのどういった不安があるのか、どういった課題があるのかという部分につきまして、ご記入いただき、それらを整理させていただいた後、検討会議等で活用させていただきたいと思っておりますので、ぜひともご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

<保護者(女性)>

地域の子どもたちは少人数の中でずっと育ってきました。子どもたちのメンタル面での対応を、不登校とならないような対応をお願いしたいです。また今まで歩いて通学していたものが、バス通学などになりますと一定時間、集団で集まって、登下校するというような形にもなり、その中でも様々な部分で精神的負担が増えるのかなあと危惧しております。そういった部分での対応もぜひとも検討をしていただきたいと思っております。

<参 事>

先ほど、メリット、デメリットの部分の説明をさせていただきました。やはり小規模校の良さというものは当然ありますが、小規模校のデメリットというものも一方ではあります。小規模校でクラス全体が本当に仲良く、ずっとそのままいければ非常に良いことだとは思いますが、発達段階の

中で人間関係のトラブルなどがあった場合、単学級だとやはり逃げ場がなくなってしまうケースがあります。結果として、元の学校にすることができなくなって、転校してしまったという事例は正直なところ、いくつかありました。そういった部分は本当にメリットでもありデメリットでもあるということを感じております。一方、規模が大きくなったからといって、学級編成が変わるからといって、トラブルが全くなくなるのかというと、そういうものでもなく、いじめや不登校なども発生する可能性は正直あると思います。確かにそういったリスクがあるのも事実なのですが、今の中学生に対しまして、競争力というか、何かそれに付随する部分が欠如している傾向があるのではないかと感じております。小規模校から高校へ進学するとやはりそういった経験という部分において、やはり差が出ているという部分がある中で、中学生という発達段階を考えますと1校化とした環境にするのが良いのではないだろうかと考えております。また、ケアという部分につきましては、最近、県の事業でスクールカウンセラーの配置などを積極的に行っております。例えば、東中学校にも年間何日か訪問をさせていただいているのですが、その分1つになれば、それだけ多くの日数、訪問をしていただくことが可能となり、手厚くケアすることができるようになります。

<保護者(女性)>

大規模化のメリット、デメリットというところですが、教職員による児童生徒の一人ひとりの把握が難しくなりやすいという記載がありますが、下の子がこども園に通園しており、大規模になってメリットもあり、デメリットもあると痛感しています。どうしてもこの部分については否めないところだと思うのですが、どんなことに対しても、家庭でもそうですし、中学校でもそうですけれども、情報を知りえないことが何かあったときに、子どもから言ってくれるようなコミュニケーションというのを親がとれる関係があれば良いと思うのですが、中学生になると思春期ということもあり、親もそういったものが取りづらくなる時期だと感じています。教職員の先生も大規模化になると把握が難しくなるという中で、今の時点でデメリットとして、私自身も心配をしております。何かそういったところの対策というものがあれば教えていただきたい。

<教育長>

具体的な対策と言われますと、これから詳細については検討していかなければならないことだと思います。子どもの成長段階で思春期というお話がありましたが、子どもが成長していく上では必ずそういう時期を乗り越えていく、あるいは自分達の自助努力で解決していく能力というものが必ず必要になってくるものだと感じております。小学校の小さいときは、先生方が面倒を見ていますが、小さい中学校で同じような形で面倒を見たときに、子どもたちが手厚く見守られている中で育っていくと思いますが、果たしてそれが本当に子どもの将来の自分の人生設計、あるいは進路を見出ししていくときにたくさんの仲間がいて、そしてその中で自分の考えを話したり、目に見えないプラスの面も当然あるのではないかと感じております。私たちが育った時代、保護者の皆さんが育った時代の学校は、どういった学校だったのかということを考えますと、やはりある程度の規模の学校の中で色々なことを勉強して、たまには少し横道にそれてみたりといったことがある中で、仲間と語り合いながら、自分というものをもう一度見つめなおしていたのかなあと感じております。大きい学校だから全く問題はない、小さい学校だから全く問題はないということではないと思いますが、先ほど説明させていただきましたが、適正規模とありましたが、やはり中学校という時期においてはその規模の中で子どもたちが過ごしていくということが大切なのではないかと感じております。当然、何かあったときにすぐにどう解決していくのか、手厚い教職員の配置なども考えられますが、これは定数というものは決まっておりますので、例えば1学年4クラスですと6人の教員

をつけることができます。それに今は県や市の予算で支援員という先生も配置しております。そういった人たちが1つの学校に集まることによりまして、色々なところで対応ができるのではないかと考えております。正直なところ、すべてに目が行き届くということは出来ないかもしれませんが、あとは学校の先生方や子どもたちがどういった中学校を作っていくんだという方向性を考えながら、伝統を作っていくんだということを考えていくということも大切なのではないかと感じております。

<参 事>

大規模という目安ですが、やはり1,000人とか1,500人くらいの生徒数の学校を指します。今回の想定ですと、仮に統合したとしても450人と想定させていただいております。私自身も下田中を卒業したのですが、それよりも少ない人数になります。そう考えますと決して今回の規模は大規模というイメージを自分自身は持っておりません。450人くらいの生徒に、自分は目が行き届くと思っております。もちろん今の東中の規模と比較するとなかなか450人を見るというのは難しいと思います。そして、今、中学というのは学年部単位での指導になっていきますので、もちろん今の東中も学年部はあります。でも結果的に職員数も少ないですから、学年部を超えて学校全体を見る形になっておりますが、恐らく学年部体制で、その学年の子どもたちをチームで見えていく、そういった部分では見やすくなるのではないかと考えております。

<係 長>

それでは最後になりますが、今、説明会を開催させていただいておりますが、保護者の方、全てを対象しましたアンケートを実施させていただきます。回答期日が短く大変申し訳ないのですが、教育委員会としまして、保護者の方のご意見は大変貴重なものであると認識しており、保護者の皆様におかれましても、ぜひともお声掛けをしていただき、多くのご意見をお寄せいただきますようご協力よろしくお願いたします。

5 閉 会

<係 長>

それでは、これを持ちまして、下田東中学校学区説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。